韓国晋州保健大学との学術交流報告：韓国学生のホームステイ

松本　正[1]・宮下　弘子[2]

長崎大学医学部保健学科紀要 16(2): 127-139, 2003

沿　革

晋州保健大学は韓国南部の晋州市に1971年に晋州看護専門学校として設立された．その後大学の規模が増大し，現在では８学科（看護科，臨床病理科，歯科衛生科，歯科技工科，皮膚美容科，保健行政部門，国際観光部門，コンピューター情報技術部門），学生総数2200名の大学となっている．

長崎大学医療技術短期大学部は1995年６月，晋州看護保健専門大学（当時）と教育研究交流に関する協定を締結している．この協定に基づき1996年には韓国学生が来日，1997年には医療短大学生が訪韓し，各々ホームステイ等により交流を深めてきた．また教員レベルでは日韓の共同研究行われ，1999年から2001年にかけて５編の共同論文が発表されている．このような歴史を基礎に，医療短大との交流協定を大学間レベルの協定にするという機運が高まり，2002年９月11日に大学間協定が調印された．これに先立ち，学生交流・共同研究の再活性化を指向した努力がなされてきて，2002年７月に韓国看護学科学生17名の訪日が実現した．

学生交流予定

表１の予定で交流を行うこととした．

受け入れ態勢

１．体験学習

晋州保健大学学生の体験学習希望が，大学施設，附属病院の実習見学，在宅看護同行，地域保健施設訪問であったので，受け入れのためのワーキンググループ（宮下弘子，浦田秀子，大石和代，半澤節子各教官で構成）を立ち上げ，各施設との調整を行った．

長崎大学医学部附属病院では病棟としては産婦人科病棟（２階），病院内設備として腎疾患治療部，理学療法部，光学診療部を見学することとした．

地域保健施設・在宅看護としては長崎県琴海町立病院の森俊介前院長の協力を得て，琴海町立病院および琴海町の家庭を小グループに分けて訪問見学することとした．

表１．学生交流（ホームステイ）予定表

７月３日(水)	17：00	出国審査および乗船
	19：00	出発
７月４日(木)	08：30	下関到着
	09：30	長崎へ出発（貸切バス）
	14：00	長崎大学到着
	14：30	歓迎式
	15：00	講演会
	16：30	学内見学
	17：00	歓迎パーティー
		ホームステイ
７月５日(金)	10：00	大学，病院などの見学
	13：00	家庭看護同行，地域保健施設訪問など（琴海町立病院）
		ホームステイ
７月６日(土)	09：00	長崎市内観光
		ホームステイ
７月７日(日)	09：30	送別式
	10：00	下関へ出発（貸切バス）
	18：00	出国手続きおよび乗船
	20：00	韓国へ出発
７月８日(月)	08：40	韓国到着
	09：30	晋州へ出発
	12：30	晋州到着および解散

引率教官；２名（宋愛理，崔鎔赫）
学生；17名

２．ホームステイ

医療短大および保健学科の全学生にホームステイのホスト希望を募ったところ，約20名の学生が応募し，この中から17名にホストを依頼し，一人の学生が一人の韓国学生のホストとなることとした．来日予定学生は全て女性であったのでホストも全員女性とし，ホストとしてのオリエンテーションを行った．ホスト学生は家族と同居している者も単身アパート住まいの学生もいた．ホストの所属は看護学科１年生５名，看護学科２年生４名，看護学科３年生３名，助産学専攻３名，理学療法学科２年生１名，作業療法学科２年生１名であった．韓国学生とホスト学生の一覧を表２に示す．

1　長崎大学医学部保健学科教育研究委員長
2　長崎大学医学部保健学科日韓学術交流ワーキンググループ座長

表2．ホームステイ学生とホスト学生

訪問学生		ホスト学生	
看護1年	ペ・ユンジョン	看護1年	浅田　祥子
	ソン・ウンジュ		井出志穂美
	チョン・ヘジン		出田　順子
	キム・ヒヨン		岩留　智美
	キム・ヒジン		山口　美咲
	チャン・ヒジョン	看護2年	伊東　知恵
	ユン・ジヘ		渋谷　泉
	イ・ドウレ		仲宗根美香
	ホン・インホア		濱崎由記子
	ソン・ナヨン	看護3年	緒方るい子
看護2年	イ・シネ		折原未亜子
	ペ・ジンホア		木原早紀子
	パク・ピリョン	助産専攻	石橋　陽子
	イ・ウンジン		蔵岡　育美
	チェ・ヒョンミ		園田　佳代
	キム・ジョンウン	理学2年	岩永　桃子
	イ・ジュウン	作業2年	井上　摩紀

3．通訳

来日メンバーとして学生以外に2名の引率教官が来日され，内1名は日本語学科の教官であったが，一人で全ての通訳を行うことは負担が大きいと考えられたので，日本での通訳を確保した．来日当日の講演会，歓迎パーテイー，2日目の病院見学，家庭訪問のために医療短大図書室勤務の坪井路子さん他5名の在日韓国人，韓国留学生に通訳を依頼した．

交流の実際

本学学生は前期授業期間中であったので韓国学生との直接交流する機会は少なかった．

1日目（木）

一行19名（宋愛理，崔鎔赫各教官，学生17名）は午後1時頃到着した．昼食後，長崎大学全体の概要を映像で紹介した．その後，101教室に移動し，寺崎明美医療短大部長を迎えて歓迎式典を開いた．式典には看護学科2年生，助産学専攻学生および教官が参加した．式典では寺崎部長，引率教官として宋愛理副教授，韓国学生代表，ホスト学生代表（緒方さん）各々の挨拶があった．

式典に引き続き，「中年女性の閉経管理と閉経症状および性生活の様相」との演題で宋愛理氏が講演を行った．このテーマは日韓の共同研究のテーマとすることが決定されており，現在研究は進行中である．講演会後に記念撮影，学内案内が行われた．

午後5時から医療短大生協食堂で歓迎パーティーが盛大に行われた．パーティーにはホスト学生も全員参加し，終了後，韓国学生を伴って帰宅した．

2日目（金）

韓国学生はホスト学生と共に登校．医療短大の沿革・概要等の説明後，石原和子看護学専攻主任より病院見学のオリエンテーションが行われた．附属病院に移動後，看護部長による病院概要の説明があり，2階産婦人科病棟の見学へと移動した．病棟では医療短大学生の実習風景，病棟内見学，携帯端末機使用状況等の説明があり，未熟児室内見学も行われた．その後，腎疾患治療部での血液透析，理学療法室，光学診療部の見学を行った．

午後は長崎大学のマイクロバスで琴海町に向かった．琴海町南部総合センターで森俊介先生による琴海町の医療保健システムの説明，同センター内のデイケアの見学を行った．その後，韓国学生を4つのグループに分け，保健師等の方々に伴われて4軒の在宅看護を見学した．見学後，琴海町立病院に集合し，反省会を行なったが，韓日の違い等につき学生の活発な意見陳述があった．その後，医療短大にマイクロバスで戻り，ホストと共に帰宅．

3日目（土）

ホスト学生，数名の教官と共に一日市内観光とした．原爆資料館，平和公園（韓国人被爆者慰霊塔を含む），永井記念館，浦上天主堂を徒歩で巡り，昼食後（中華料理）は一日乗車券を使って路面電車で移動した．出島資料館，大浦天主堂，グラバー園を巡り，グラバー園で自由解散とした．この後殆どの学生はホストと共におみやげ等を求めて浜の町方面に移動した．

4日目（日）

ホストと共に登校後，送別式を行った．部長挨拶，韓国学生代表挨拶，ホスト学生代表（折原さん）挨拶をもって終了し，一行は貸し切りバスで下関に向けて出発した．

総括および感想

今回の来日時期は本学では前期授業期間中であり，本学学生との十分な交流ができたとは言い難いことが残念であった．しかし，このような交流が日韓の相互理解を深めるためには非常に有意義であることは論を待たず，今後とも継続していくことが重要である．2003年度は本学学生の訪韓を行いたいと思っていたが，SARS騒ぎで中止の止むを得なくなったことは残念である．2004年には是非訪韓を実現したいと考えている．

多くの方々の協力により交流が滞りなく行われたことに関して深く感謝いたします．まず，ホストを引き受けていただいた学生諸君とともに琴海町で家庭訪問を快く引き受けて下さった方々に心より感謝いたします．また，琴海町の南部総合センター・琴海町立病院の関係者の方々，通訳をお願いした方々，長崎大学医学部附属病院の関係者の方々，多くの協力いただいた本学教職員に感謝いたします．

総じて韓国学生の印象は「元気」であった．来日時期はサッカーのワールドカップの直後だったこともあり，歓迎式の時には学生は全員韓国応援団の赤いTシャツを

着て応援歌の大合唱を行い，本学学生は度肝を抜かれたようであった．２日目の家庭訪問後の反省会では，鋭い観察眼を持ち，日韓の差の認識，その違いに立脚して自己の意見を集約して述べる能力には刮目すべきものがあった．また本学学生の感想文にあるようにホスト宅でもよく語り，よく遊んでいたようである．

本学学生も数組のホストやその友人たちが集まって食事をしたり遊んで交流していたようである．最初は言葉の壁があったが，最終日にはかなり理解し合えるようになり，送別式の時には涙々で離れがたい学生もいたようである．交流終了後のホスト学生の反応は全員肯定的なものであり，最初は戸惑いもあったが有益だった，機会があればまたホストをしたいとか，今度は自分が韓国を訪問したい，といったものであった．

本交流事業は本学教員のカンパ，医療短大後援会からの寄付，輔仁会からの寄付でまかなわれた．収支の概要を表３に示すとともに，関係諸氏にお礼申し上げます．

最後に，この報告文は日韓両学生の感想文を付けて報告書の形態をとる予定であった．本学学生の感想文は韓国留学生および坪井さんの協力を得て韓国語に翻訳して晋州保健大学に送ったが，韓国学生の分は送られてこなかったので，遅ればせながらこのような形態でここに報告することとした．

表３．収支報告

支　出		収　入	
歓迎パーテイー	160,000	教官助成金	250,000
通訳・翻訳謝金	60,000	教育後援会	94,090
ホスト謝礼	102,000	輔仁会	100,000
入館料	34,780	繰越金	35,655
電車１日乗車券	19,000		
献花	8,400		
昼食代（韓国学生）	43,500		
引率教官宿泊料等	40,320		
写真代	5,845		
その他	5,500		
計	479,745	計	479,745

教官助成金は教官からのカンパ
繰越金は前回の学術交流からの繰り越し

本学学生の感想文

韓国の学生を迎えて

看護１年　　浅田　祥子

韓国の学生を迎える前，同じようにホストをすることになっている友達と一緒に私は色々な事を考えていました．韓国の人ってどんな感じなんだろう，日本に対してどういう感情をもっているのだろう，どんな食べ物が好きかな，スキンシップはとる方だろうかーー．一緒に３日間過ごすことになっていたので，自分の日常生活の１つ１つを検討して，韓国の人にくつろいでもらえるようにしようとしました．しかし，私は今の韓国についてあまりにも無知で，大した準備もできないまま韓国の学生を迎えることになりました．

７月４日の夕方，医技短生協での夕食パーティーにむかいました．私は相手が日本人であっても初対面となると緊張するのに，言葉も通じない韓国の人との対面はとても不安でした．会って何も話せなかったら」どうしよう，嫌われたらどうしよう，と考えても仕方のないことばかり考えていました．けれども，そんな心配は全く必要ありませんでした．やはり韓国語は全く理解できなかったけれど，英語で話をすることができ，私の家にきたユンジョンはすぐに私のことを受け入れてくれて，私に色々な質問をして２人の会話をリードしてくれました．

４日の夜は他のペアに混じって１人のホストの家におしかけて，韓国と日本のおかしを食べながら，おしゃべりやゲームをしたのですが，私は韓国の学生のゲームに取り組む時の真剣さに驚かされました．それは罰ゲームがあるからで，その罰ゲームも厳しいものだから，それがゲームを真剣勝負にし，盛り上げているのです．その日だけでなく他の日も皆でゲームをしたりしたのですが，その時もやはり罰ゲームがあって，皆常に真剣でした．

私の勝手なイメージとして韓国の人は堂々としているというのがあって，一緒にご飯を作ったり，片付けをしたりするというのは想像していなかったのですが，彼女たちは本当に自ら率先して料理をしてくれたり，洗い物をしてくれたり，非常に協力的だったというのが印象に残っています．私だったら，ここまでやったらかえって迷惑になるかなと思うようなこともどんどんしてくれて，とても助かりました．けれど，そういうことをたくさんやらせてしまい，家に迎えるというより，一緒に生活をしたという感じになって，あまりくつろぐ暇もなかったんじゃないかと少し申し訳ない気持ちにもなりました．

ホストを引き受けた当初は３泊４日は長いかなあと思っていたのですが，思ったよりも３泊４日は短くて，一緒にゆっくりと話す時間がとれず，夜更かししつつも話をしました．最後の日の買い物も時間がなく，電停から200mぐらいしか動けないまま，いろんなお店を見せてあげることができず，とても残念でした．今の日本をもっともっと見て聞いて感じてほしかったけれど，時間と私の語学力の無さで十分に伝えることができませんでした．

日本は過去に韓国に対して良くないことをしてきた歴史があるということを私も今まで学校で習ってきているので，韓国の人は日本に対してよいイメージを持っていないと思っていたのですが，今回はそういう意味でも韓国の学生と若者どうしの交流ができて本当によかったです．今までちまちま考えて行動に移すことができないことが多い私でしたが，韓国の学生を家に迎えて，一緒に

生活をして，細かいことを色々と考える事も必要だけれど，どんとぶつかっていくことも大切だということが分かったような気がします．そして，韓国に暮らす友達ができたことで，韓国という国が以前よりもぐんと近づいたようにも思います．この経験は今後の私の人生においてきっと大きな糧となることでしょう．

最後にユンジョン，ヒョン，ウンジュをはじめ韓国から来て下さった方々，すばらしい時間をどうもありがとうございました．

ホームステイ受け入れをしたこと

看護１年　井手志穂美

最初はやはりとても迷いました．自分の今の生活でも手一杯の私がホームステイの受け入れをして，それで本当にお互いのためになるのかとか，国・言語の違いがあるのに，うまく４日間すごせるのかなど，不安は沢山ありました．でも，しないで後悔するより，してみなくちゃと思い，受け入れを決めました．そして，今は本当にいい経験ができたなあと思います．

実際私達がしたことで一番印象に残っているイベントは「手巻き」で，その他は，お互いの国の言葉を教えたり，ゲームをしたりしました．たいした事ではないんだけれど，４日間共にそういう事をしながら過ごして，お互いの国（文化）の違いなど，少しですが分かったし，沢山の事を一緒にできて楽しかったです．私は友達と一緒に夜もいたので，あまりゆっくり一対一で話すことができず，ハングル語を少ししか教えて貰うことが出来なかったのが少し残念でした．韓国の人はしっかりと日本語を勉強していて，覚えるのも早いし，自分といったら何も話せず，なかなか覚えずで情けなかったです．

普段私達があたり前に使っている，コミュニケーションの手段である日本語も国が違えば言語も違うわけで，通じなかったこと，伝えたいことがなかなかうまく伝えられないもどかしさを実感しました．そして，やはり日本人同士のつき合いでは分からない国民性があることに気づきました．１つ強く思ったことは日本人はよく「ありがとう」や「すみません」を使うと聞きました．私もよく使っていたのだと思います．だけど，それはその場をうまうやりすごすために使っているのではなく，本当に感謝したり，申し訳なく思うから使うのだと私は思います．また，その言葉の範囲が広いのではないかと思いました．

また，同時に同じだなあと感じることも沢山ありました．言葉があまり通じないからといって，頼んだ事をうまくできないわけじゃないということにも気づかされました．みんなでよく笑いました．

本当に，今回国境を越えて知り合うという機会をもつことができて，よかったです．普段とは少し違う，忙しかったけど，ためになる４日間でした．

あまりうまく書けなかったけど，これが私の初めてのホームステイ受け入れの感想です．ありがとうございました．

韓国学生のホームステイを受け入れて

看護１年　出田　順子

４日間の出来事

７月４日

歓迎パーテイーではじめてヘジン（受け入れた子）と会う．自己紹介をする．韓国の学生の積極さとおしゃれなことに驚いた．解散後，韓国の学生４人とホスト４人で私の家に行き，８人でおしゃべり．韓国のお菓子，ジュースを飲ませてもらう．日本のお菓子，ジュースを買ってきて食べてもらう．英語を使って８人でゲームをして盛り上がった．最初はあまりうまくコミュニケーションできず大変だった．でもゲームをしているうちにだんだん相手のことが分かってきたし，韓国のお菓子もジュースも味は日本のものと変わらず美味しかった．E-mailが日本よりも普及しているということも分かって，韓国のことがちょっとずつ分かってきた．韓国学生の希望により，４人（日本人２人，韓国人２人）ずつ泊まることになる．夜は１：30くらいまで韓国語＆日本語の教え合いを４人でした．私としても１人だとちょっと不安だったし良かった．韓国の学生も言葉が通じる人がいるし，私も言葉が通じる人がいたので，英語を使っての会話がかなり盛り上がって楽しかった．

７月５日

朝食；そうめん，チーズ．日本の食べ物を食べて欲しくて，そうめんにしたがdelisiousと言ってたくさん食べていたのでホッとした．このころになると何か言いたい時には，韓国の学生も私達ホストも自然に英語を使うようになってきていた．

夕食；回転寿司．韓国の学生２人とホスト２人でアミュの回転寿司に行った．わさびも「try ?」と言って試してみてもらった．韓国にもわさびはあるらしいが，日本のものほど辛くないらしく「a little OK, but much NO !」と言っていた．回っているお寿司で食べたいものを指差してもらって，その度にそれのさび抜きを注文した．水がなくなった時には韓国の子に「水を下さい」と言ってみてもらった．回転寿司はかなり喜んでいたので良かった．その後プリクラを撮った．とても喜んでいたから良かった．

私の家に韓国の学生３人，ホスト３人が来て，３時間くらいしゃべった．韓国では髪の２つ結びはしないことや，私は韓国の人の考える典型的な日本人であることなど，いろいろなことが分かって良かった．せんべいは韓国人にとって塩辛すぎるそうだ．

７月６日

朝食；ごはん，味噌汁，梅干し，味付け海苔，いり卵，納豆．味噌汁，海苔，いり卵はdeliciousと言っていたが，梅干しはダメだったし，納豆は匂いを嗅いで手もつけなかった．

昼食；チャーハン，皿うどん，ちゃんぽん in 中華料理店．皿うどんは甘くて苦手だそうだ．韓国のジュース

の値段を聞いて日本の物価が韓国の２倍だと知る．洋服が欲しいと言っていたので一番安い店に連れて行ったが，expensiveと言ったのであきらめた．100円ショップは良かったようだ．

夕食；回転寿司．韓国の子が一番仲の良い友達と夕食を食べたいと言ったので，その友達の都合により，またお寿司になってしまった．申し訳なかった．ゆかたを借りてきて着せてあげた．すごく喜んだので，わざわざ借りに行ったかいがあった．お互いの家族のことについて話した．韓国の子の家のことが分かって良かった．今度は私たちが韓国に行くと約束した．

７月７日

朝食；コーンフレーク．コーンフレークが良いと言ったので一緒に買いに行った．もう英語でのコミュニケーションはバッチリになっていた．

感想

会う前はかなり不安で「受け入れしなきゃよかった」と思ったこともあったが，会ってしまえばどうにかなるもので「受け入れして本当に良かった」と今は思っています．私は今までも外国文化には興味はあったのですが，今回の受け入れを通して，より一層その気持ちが強くなりました．今度は私が外国に行っていろいろなことを学べるといいなと思っています．もし，またこのような機会があったら，ぜひまたやりたいです．

日韓交流を終えて

看護１年　　岩留　智美

韓国の学生さんと過ごした４日間は，本当にあっという間でした．今振り返ってみると，毎日時間に追われていたような気がします．しかし，本当にたくさんのことを学ぶことができました．

最初に，韓国のみんなが赤いＴシャツを着ていたのを見て，とても驚きました．そのうえ歌を歌うときに，私たち日本人とは比べ物にならないくらい大きな声だったので，韓国人の団結力の強さを見た気がしました．また，交流相手と出会ってからも積極的で，圧倒されてばかりでした．帰りもみんな一緒で，友達と一緒にいたいという人が多かったので，グループごとに帰っていきました．私は４人で泊まることになりました．日本人は，自分の意志を伝えることが苦手だったり，遠慮したりするので，韓国人の意志の強さを，余計に強く感じてしまうのだと思います．

家では，よく気を遣ってくれて，いろんな手伝いをしてくれました．特に，私の交流相手はとても優しくて，歩いているときには，荷物を持とうとしてくれたり，坂を上っているときには，背中を押してくれたりしました．しかし，私は「大丈夫だよ」と言って断ることが多かったので，「いつも断るよね」と言われました．友達も同じことを言われたそうです．

また，食事の場でも，日本と韓国の間には違いがありました．日本では，作ってくれた人に感謝の気持ちを表すために全部食べます．しかし，韓国では，全部食べたらまだ食べたいという気持ちを表すので，少し残すそうです．

お互いの文化や習慣について，英語やジェスチャーを織り交ぜながら会話していくことによって，もっと相手のことを知ることができるようになりました．私たちも韓国の学生さんも，英語を上手く話せるわけではないので，会話をするには時間がかかります．しかし，それが逆に親近感をもたらせてくれるし，間違った文法でも理解できるのです．私たちは英語を中心に，日本語，韓国語，中国語，Body languageの５つの言葉で話しました．韓国語は発音が難しくて，なかなか通じませんでしたが，韓国の学生さんは日本語を覚えるのが早かったので，とても勉強熱心だと思いました．それに比べて，韓国語をなかなか覚えられない自分が恥ずかしくなりました．

今回の交流で１番驚いたことは，いつも手をつなぐことでした．まだ，あまり仲良くなっていない初日から，韓国の学生さんの方から手をつないできたので，びっくりしましたが，周りの人もみんなそうしていたので，これが普通なのだと，すぐにわかりました．日本人は友達同士で手をつなぐことはほとんどないので，韓国人がとてもフレンドリーに思えました．逆に韓国人にとって，日本人は愛想がなく思われるのかなあ，と心配になりました．特に私は恥ずかしがりやなので，韓国の学生さんにそう思われたかもしれません．韓国の学生さんは積極的に話しかけてきたり，自分の気持ちをはっきり伝えてきたりしたので，私も見習わなければいけないと思いました．

４日間は本当に忙しく，時間に追われてばかりでしたが，ゆっくり落ち着いた今，考えてみると，日本人と韓国人が数人で共同生活できたことは本当にすごいことだなあ，と思います．同じ日本人の友達とでも結構大変なことなのに，言葉や文化が違う人たちが４日間も一緒に暮らせたのです．これは実際に経験してみないと絶対にわからないことだと思います．いつの間にか自然と英語を話すようになっていたり，ホームステイが終わってから，日本語だけの会話を不思議に感じたりします．まるでホームステイの頃の自分が別人のようで，夢を見ていたかのような気分です．しかし，ホームステイの受け入れをして，文化だけでなく人との付き合い方も学ぶことができて本当に良かったと思います．またこのような機会があったら，今回の交流よりはもっと余裕を持って行動できるのではないかと思います．今回友達になった人たちとも，ずっと仲良くしていけたらいいなあ，と思います．

韓国の学生との交流を通して

看護１年　　山口　美咲

私は韓国の学生を受け入れる前とても不安だった．受け入れにOKしたものの，私は英語が大の苦手だからだ．

案の定，韓国の学生ヒジンとは初日はどう英語で話せばいいのかわからなかった．また話しても発音やアクセントの違いでうまく通じないことも多く，どうしたらいいの

かわからない状態にまで陥った．しかし２日目に他のホストの友達の家であしゃべり＆お泊まり会をしたことで，ずいぶん話せるようになり最後の方はずいぶん仲良くできたと思う．いろいろ食べてもらった中で味噌汁やお寿司という日本の伝統的な食事を気に入ってくれて良かった．

私はこの４日間という短い間で，コミュニケーションの大切さを改めて学んだ．英語がうまく話せなくても，いろいろ工夫しながら一生懸命やれば充分思っていることは伝わるのだということが，身をもって体験できた．初め私は完璧な英語を話そうとして，なかなか話しかけられなかったが，そんなことは気にせずどんどん話しかけるべきだった．そうすればもっとヒジンや他の韓国の学生の子達と仲良くなれたかもしれない．でもやはり英語がすらすら話せることにこしたことはない．私もヒジンとほとんど英語で話していたように，英語はこれからの時代にはかかせない言語だと思う．

４日間，本当にあっという間だった．もう少し期間を長くしてくれたら良かったのにーー．今は韓国の学生を受け入れて良かったと思っている．いろんなことを学べたし，近いけれど遠い国だった韓国がギュッと身近に感じられた．甘すぎる食べ物が嫌いなことなど習慣や文化に違いもあったけれど，顔や言語は日本に近い．また韓国の学生はとても明るく元気！来年は約束どおり私達が韓国におじゃまするつもりなので，彼女達に負けないようにしないといけない．そしてそれまでに韓国語の勉強を少しずつやらないと！

韓国人ホームステイの受け入れ

看護２年　　伊東　知恵

初めに

韓国人のホームステイは少し興味があって家族も受け入れて良いということだったので３日のみということもあって安易な気持ちで“Yes”を出しました．しかし韓国人の来日が近づくにつれて，ちゃんとコミュニケーションできるのか？とか，家は遠いしきたない所でいいのか？というさまざまな不安がでてきました．そういう不安な気持ちながらも来日の日は普通に近づいてきました．

１日目

初めて韓国の人に会った感想は，元気でみんなタフな感じで，イメージと同じでした．日本のサッカーの応援をしてくれた時は少し感激しました．名前は分かっていたけどまだ顔が分からなくて自分の受ける韓国人が分かるまでドキドキしていました．歓迎会の時はたくさんの料理が並んでいておどろきました．会が始まって少しずつ韓国の人と接するようになったけど，まだなかなかコミュニケーションはとれなくて，ただ料理の名前や何が入っているのかを教えたりするだけでした．受け入れる韓国人との紹介があって，やっとホッとしました．ヒジンは見た目は大人っぽくてキツイ感じがしたけど実際はとても明るくてハイテンションで親しみやすい人でした．その日はバスで家へ帰って，父は夜勤だったので母と妹と弟を紹介しました．母が英語をまったく話せないにもかかわらずヒジンと話したり，コミュニケーションをはかろうとしていたので安心しました．夜は母と妹とヒジンで話したりして楽しかったです．

２日目

朝は６時20分に起きるとヒジンに言っていたので私が起きたらヒジンはもうふとんもたたんで下において顔を洗ったりしていました．私は睡眠が足りないと起きれない人だったけどヒジンは２時間しか寝なくていいと言っていたので朝は強かったです．バスでは家から乗り換えで１時間30分かかって，１本目のバスは混んでいて座れなかったので１時間は立ちっぱなしだったので，ヒジンは具合が悪くならないか心配だったけど大丈夫そうで良かったです．それどころか席が空いて私がヒジンに座るように言っても座らなくて，逆に私に座れと言っていたので座らせてもらいました．ヒジンは私が思ったよりも体力がありました．ヒジンは時々「レディーファースト」と言って私を優先してくれて自分のことを「I am strong」といっていて，なんか頼りになる感じでした．その日の夜は父も帰ってきて母とヒジンと４人で韓国のことなどを聞いたり話したりしました．でも父は酔っていたしヒジンも疲れたと思います．

３日目

今日は学校に９時に着いたら誰もいなくて学校集合ではないのかと少し心配しました．15分くらいになったらみんなが来たので安心しました．

初め原爆資料館に行って写真を見たりしました．人間の身体が焼けている写真を見て私もヒジンもとてもショックを受けました．写真を見たことのある私でさえ改めてショックを受けたのでヒジンはもっとショックを受けたのだと思います．この爆弾を落としたのがアメリカであると私に確かめた後，ヒジンは「アメリカbad」と言っていたので，それは昔の事であり日本も悪かったと言ったが，また核の資料の所でアメリカが核実験の多いのを知ったヒジンはまた「アメリカbad」と言っていました．お昼にはもうみんな疲れきっていて，お腹もすいていて浦上天主堂に着いた時にはみんなが「hungry!」と話していました．

お昼では８人くらいでテーブルを囲んでみんなで食べ物の話や言葉の話や行儀の話（日本ではお茶碗など持って食べるが，それは韓国では行儀が悪くて置いて食べるのが良い）を話したりして楽しかったです．

26聖人の所では本当にきつくてグラバーまでもたないかと思っていました．26聖人の説明は少し知っていたので少し説明していたら先輩が来て英語で詳細に説明していたので私ももっと長崎の歴史を勉強しないといけないと思いました．グラバー園では自由行動だったので少し写真をとったらすぐに出口に向かいました．４人で行動していたけど４人とも疲れていたので，おみやげを買っ

て（自分たちがKoreaへ），浜の町へ行きました．

浜の町では100円ショップに行ってKoreaたちを少し置いて，２人でKoreaへのおみやげを買いに行って，お茶とよりよりを買いました．Koreaをいろんな店につれていっても「ビサダ（高い）」といって，結局100円ショップでお菓子だけを買って帰りました．

夕食では家族でお寿司を食べに行ってヒジョンはマスターとも仲良くなってサービスを要求していました．その後私が運転する車で稲佐山に行きました．それはまたグラバーでの４人で行って，Koreaは景色を見て喜んでいて，連れて行って良かったです．その後あと２人ホストとKoreaが入ってカラオケに行きました．カラオケではKoreaは韓国語の歌を歌っていて上手でした．６人で行ったので結構盛り上がりました．

４日目

朝，私の家族とお別れをしてヒジョンに昨日買ったおみやげをあげました．学校ではヒジョンから韓国のお金をもらいました．ヒジョンの友達が中国のお金は日本の１／10の価値であることを教えてくれました．スライドを見て（お別れ会），挨拶が終わって外に行くとみんな写真をとっていたので私とヒジョンも混ざって最後にたくさん写真を撮りました．先生がヒジョンたちにバスに乗らないといけないと言っていたので私たちはお別れを言いました．なんか悲しくて涙がでてきました．ヒジョンも泣いていたので更に涙が出てきました．バスが行った後もまださびしい気持ちがあって悲しかったです．

全ての感想

このホームステイでは言葉では表せない何かを得た気がします．３日間は思ったより長くて，途中できついと思ったこともあったけど，ヒジョンは言葉もあまり通じない空間に暮らしてとっても不安な気持ちでいると思ったら，できるだけヒジョンに楽しい思い出を作ってあげようと思いました．ヒジョンは私の部屋に寝ていたけれども，ヒジョンがいなくなった部屋はもの足りない感じがしました．このホームステイでは，私たちは韓国について何も知らない事が分かりました．今度は私が韓国へ行ってみたいと思いました．

要望：観光は場所を減らすかバスでまわるようにした方がいいと思います．

ホームステイの感想

看護２年　渋谷　泉

ホームステイを受け入れることについてはかなり迷いました．まず家の広さが狭いということ，コミュニケーションをきちんととれるかという心配，唯一のコミュニケーション方法である英語もいまいちうまくないということなど不安だらけでしたが，今は受け入れて本当に良かったと思いました．

まず初日のウエルカムパーティーで初めて顔を合わせ自己紹介をしました．歓迎会での韓国人のパワフルさから察して私の所にホームステイする子もどんなものかと，かなりドキドキしていました．初めて２人で会い自己紹介した時に，私は彼女の英語を聞き取ることがなんとかできたけれども（まあこれは近くにいた先生方が理解したのを私に教えてくれたものですが），私が英語で「私のことは“いずみ”と呼んでね」と言ったものはあまり伝わっていなかったようでした．その後話すことがなくなるとササッと彼女は親友らしき韓国人のもとに帰ってしまいました．その後彼女の様子をしばらく観察していると，親友といる時はとても楽しそうにしていましたが，他の人とはあまり積極的に話している様子は見られなかったので，彼女は人見知りする子なのかなと思いました．ウエルカムパーティーも終わって家へ一緒に帰る時，私は少ない英語能力を駆使しながら一生懸命彼女に話しかけました．でも発音の仕方が悪いらしくあまり理解してもらえず，彼女も表情がかなり困っていました．帰ってからも銭湯に行ったけれど，あまりリアクションもなく，私もどうして良いのか全くわからない状態でした．１日目彼女について私がわかったことは，彼女は韓国人にしては自己主張が少なく，遠慮がちな日本人タイプの人ではないかということでした．まあでもそれは私がそうさせているのかもしれないのだから，何がしたいとか何が食べたいということは，しっかり聞いてみようと思いました．そしてあまり気を使わせないように，そんな配慮ができたらなあと思いました．

２日目は朝からはりきって，ごはん，豚汁，目玉焼きを朝食として出しましたが，私が一番力を注いだ豚汁が残されていて（ほとんど）ちょっとショックでした．そこで「おいしくなかった？」みたいなことを英語で聞こうと思ったのですが，英語が出てこなかったので，ごはんを差してジェスチャーで言ってみると，伝わったのか伝わらなかったのか，彼女は「オーケー，オーケー」と言っていました．結局味が口に合わなかったのかどうかはわからないままでした．学校に行く途中も私から話しかけることはかなり多いのですが，彼女からの質問はほとんどない状態で，何か少し気まずい感じでした．この日の夜は私はどうしてもバイトに行かなければならなかったので，友達のホストと一緒にごはんを食べてもらうことになっていました．せっかく来てくれているのに，ほっといて悪いなあと思いつつ，私は彼女にもう１回手紙で今日の夜のことを連絡することにしました．英語で「今日はバイトに行かないといけないといけないから友達と一緒にごはんを食べてね．明日は学校休みだからたくさん遊ぼうね」というような内容でした．バイトから帰って友達の家に迎えに行くと彼女は笑顔で迎えてくれました．それを見てちょっと安心しました．疲れていた感じだったので，みんなで少し遊んでから家に帰りました．

３日目は１日市内観光で，彼女の親友のペアと一緒に４人でまわりました．彼女は親友も一緒だったので私といる時よりも全然笑顔で私が質問したことに対しても困っ

た顔をしないで親友に聞きながら返してくれました．この日は一日中一緒にいたこともあってかなり交流できたと思いました．そして夜は稲佐山にドライブに行く予定だったので，その前に時間があって２人でゆっくり話をしました．３日目ともあって，わからないことは辞書をひいて話したりしたらわかってくれました．この日初めて通じ合ったなあという感覚を感じました．稲佐山には親友ペアと４人で行ったので彼女も楽しそうで私も楽しかったです．坂の途中で脱輪というハプニングもかなり良い思い出です．この日は歩き疲れてグッスリでした．

そして最終日，学校に着いて先生の話があった時，来年は日本から韓国を訪れるということを言われたので，彼女は「いずみも来るの？」というようなことを聞いたので，「わからないけど，私も韓国に行きたいとは思っているよ」と言いました．すると彼女はニコーと笑ってうんうんとうなずきました．何かそれまで彼女が楽しんでくれたかどうか，かなり不安だったけど彼女の笑顔を見て，まあ楽しんでくれたかなと思いすごくうれしかったです．

このホームステイでは韓国人のパワフルさ，自己主張の強さに日本人も負けていられないなあと感じました．自己主張のしすぎはいけないけれど私たちはしなさすぎのような気がしました．すごく勉強になりました．そして国は違っても気持ちが伝わらないということはないという感じがしました．それにはたぶんお互いわかろうとする努力が必要だし，お互いの国について（言葉なども）知りたいという姿勢でのぞむことが大切だと感じました．要望ですが，３日目の市内観光は歩きすぎだと思いました．すっかり足痛かったです．韓国人もグッタリしていました．もっとここぞというスポットにしぼるべきだと思いました．

韓国人ホームステイを受け入れて

看護２年　　仲宗根美香

受け入れが決まってから

少しの英語とジェスチャーさえできれば，なんとかコミュニケーションは取れると聞いていたが，英語すらろくにできないから少し不安だった．でもとてもわくわくする気持ちの方が強かった．自分の英語能力の低いのを少しでもカバーしようと，自家で姉が使用していた「日韓辞典」を送ってもらっていた．

１日目

歓迎セレモニーでの韓国人を見て，とてもパワフルな雰囲気に圧倒された．初対面の時はどう対応していいのかわからず，うまく自分の気持ちを表現できなかった．その日は長旅で疲れているだろうとのことで家に帰り，一緒に韓国語講座をした．お風呂，トイレ等の使い方を全部説明しないといけないのかと思っていたが，場所を説明しただけで後は普通に入れていた．タオルや傘，シャンプー類等すべて準備してきていて思ったより受け入れ側としての負担はなかった．

２日目

医技短への登校の道のあの坂にびっくりしていた．かなり息もあがっていて，これを毎日登っているのかと驚いていた．琴海からの実習を終えたドウレと共に近くのスーパーへ買い物に行き，日本のスーパーの様子を見てもらった．夕食後，私の担当だったドウレのbest friendであるヘジンのホストの家に遊びに行き，ちょっとしたパーティー（お菓子を食べたり，昔の写真を見たり）をして夜を過ごした（３対３で）．基本的におとなしめの子で１対１でいる時よりは，やっぱり韓国人同士一緒にいたら会話もはずんで笑いもいっぱいあったような気がした．他のホスト（一人暮らし）とかは，２組くらいで泊まり会をしていて韓国人が寂しくないように工夫していたから，もうちょっと私も工夫すべきだったかなと思った．普段の生活では10：30頃に寝ると言っていたが，楽しかったらしく１時過ぎまで帰ろうとしなかった．英語はかろうじて通じたが，次の問題は英語の発音が下手だったために伝わらなくて，最終手段は書いて確認し合っていた．でもそれが確実で簡単だった．

３日目

まず，ちょうどいいぐらいの天気になって良かったと思った．晴れすぎで暑くもなく，雨も大降りにならないで，風もきもちよかった．

原爆資料館見学をして，戦争の悲惨さを実際目の当たりにして，かなり衝撃的だったようだった（特にケロイドの写真）．その見学の最中に同じような感じの韓国からの留学生の人達も観光で来ていて，嬉しそうにしゃべっていた（自分が同じ立場―知らない環境で同じ国民に会ったら―でもすごく嬉しいと思う）．平和公園への移動途中でのストリートライブに興味を示し，すごいのりのりで皆一体となってその場を楽しんでいた．（韓国にはないのだろうか，聞くのを忘れてしまった．）平和公園（母子像のあるところ）でピースをして写真を撮っているのを見て，ある日本人の男性が「ここでいっぱいの日本人が死んでいるのにピースはないやろ！」とかなり激怒していた．私達はたまたま撮り終わっていたために直接怒られることはなかったが，その場にいた韓国人は一瞬何が起こったかわからず混乱しているようだった．その場にいなかったからその男性が何も考えずにピースをしていたことに怒りを表していたのか，こういう場所だからピースはすべきじゃないと韓国人に教えなかった日本人に対して怒っていたのかーー，どっちにしろ無神経な私達にイライラしたんだと思う．私自身，何も考えずにピースをして写真を撮っていた自分がいたし，そのせいで韓国人を不快にさせてしまって本当に申し訳ないと反省した．

如己堂に入ってシアターを見ていたが，日本語訳のみだったから韓国人からしてみればつまらなかったと思う．26聖人のところはあまり興味がなかったようだった．出島のシアターでは英語，中国語，韓国語それぞれの訳の

ヘッドホンがあって，あれはすごく良かったと思う．

グラバー園を見た後，韓国人が一番楽しみにしていた浜の町へ行きお土産探しをしていると，そこで問題発生．洋服やサンダル，アクセサリー類を探していたが物価の違いがすごくて，SALEをしていて一番安い店に連れて行ったけど，気に入ったものが高かったりで，結局何もgetできなかった（韓国のお店はPM10：00閉店らしく，その考えが日本も同じと思ったらしく，余裕していて行きたいお店に行けなかったりーーー）．こっちはあたり前の感覚だったために相手に悪いことをしたと思った．ちゃんと説明して計画的に動くべきだった．

買い物の後，医技短２年生３人とそのホームステイ相手の韓国人とカラオケに行き，相手の歌のうまさにびっくりしたと同時に，やはり娯楽の一つであるカラオケ等は国境を越えて万国共通なんだと実感した．

４日目

やはり最後の別れは辛かった．最終日ともなれば結構コミュニケーションも取れてきて，ドウレも日本語が上手になっていた．登校途中にドウレから貰った日本語の手紙がものすごく嬉しかった．

食事

できるだけドウレの希望に添うようにというのと，得意不得意ではなく日本に来たからには日本料理を食べて帰ってほしいとの思いから，あらゆる日本料理に挑戦した．定番の納豆はやはりくせがあるらしくダメで，豆腐は韓国と同じとのことで食べてくれて，味噌汁はありはするが味が異なると言って食べなかった．寿司の評判はあまり良くなかった気がする（表情をあまり出さない子だったので判りにくかった）．韓国料理は基本的に辛いから，日本のしょうゆせんべい等もどうってことないだろうと思っていたら，その塩辛さはあまり好みではないらしく食べなかったのが印象的だった．

まとめと要望

４日間異文化交流に参加して，正直なところ言葉の壁や，一人暮らしということですべて二人分という不慣れなこと等からの気疲れがドッときた．反省点としては，韓国語の前に英語をもう少しきちんとマスターすべきだったと思ったと同時に，英語の全世界共通のすばらしさに感動した．６千円の支給はかなり助かった．

要望としては相手側にこっちが一人暮らしだということを伝えていてほしかった（家族有りと同じ対応が困難だから）．あと，３日間はやはりちょっときついし，韓国人も同じ仲間同士で過ごしたいという気持ちがあったんじゃないかという想像から，１泊くらいは韓国人だけの宿泊があってもよかったと思う．観光のスケジュールはハードすぎて，韓国人も足・腰が痛い等と口々に言っていた．もう少し減らすかバスの移動が良かったのではと思った．

最後に，韓国人は皆陽気で元気で，日本人がいかに内気で消極的かを思い知らされ，もっと自己主張できるようになるべきだと感じた．いろいろ困難なこともあったが，それ以上に学びや喜び，そして人との出会いというステキな経験ができ，参加して良かったと思っている．今度は逆バージョンで自分が訪問して，その相手側の気持ちというものも味わってみたい．このようなすばらしい機会を与えて下さった先生方に感謝したいと同時に，これからもどんどん交流を増やしていくことが，日本の学生のいろんな面での向上になると感じた．４日間どうもおつかれさまでした．

ホームステイを受け入れた感想

看護２年　　濱崎由記子

私は今回のホームステイをボランティアをしたいという考えと，日本以外の人と初めてふれあってみたいと思う軽い気持ちから受け入れようと考えた．受け入れが決まってからは楽しみでいっぱいだったけれども，実際に来て，話しているところや外見で，やっぱり受け入れない方がよかったかもしれないと思った．実際目の前にしてみると，何と話しているのか全く理解できないし，英語での会話もできない．何よりサングラスをしているのが怖くみえたからだった．看護の話で患者さんが髪が茶色い今時の人に看護されたくないというような話を聞いたとき，やっぱり年を経た人はそういう考えを持つのだなあと思ったが，実際今回韓国の人たちを見たとき，自分も同じことを考えていたことに気付いた．しかし，きっと１人１人と話してみると絶対悪い人でないと思い，言い聞かせながら16時～17時までの時間を過ごした．

しかし実際にウエルカムパーティーが始まってみると，韓国の人にもいろいろな人がいて，少しずつみると皆一生懸命に日本人の私たちと積極的にコミュニケーションをとりたがっている様子をみて，自分はずるいなあと思って話をしてみた．私のパートナーは「あなたの名前は何ですか？」という英語を理解できない様子でいっそう不安はつのったけれども，表情などをみて，時と場所を考えながら，少しずつ２日間かけておたがいを理解できたように思う．韓国の人たちは，しっかり日本での会話を学んで来ていたのに，自分たちは受け入れるし，日本にいるという気分からか勉強しなかったことをとても後悔し，２日間かけてパートナーに教えてもらった．紙を見なくても「おはよう」と「バイバイ」と「いただきます」「ごちそうさま」，「暑い」と「疲れた」は言えるようになった．韓国の人たちで話している言葉は全くわからない３日間だったが，私にとっては，人の見た目という思想の転換と，韓国の食文化を理解し，コミュニケーションはどんなに文法的に成立しない英語であっても，わかってほしい，わかりたいな，というお互いの歩みよりの気持ちがあれば理解できるんだなあとわかり，３日目には冗談も言うことができ，笑うことができた．とても嬉しかった．

“世界には約60億人の人がいる．それは１日に１人ずつ友達になったとしても一生で全員とは知り合うことは

できない．その内の何人かと知り合うことができた今，今知り合った人たちは運命である”という私の大好きな詞がある．今回３日間という短い間に，日本の後輩たちも含め，10人以上も友達になることができた．すごく引っ込みがちな自分にしては，とても頑張ったし，たぶん私以上の頑張りを韓国の人はしたと思う．

今回のホームステイは私の思考を変える大きなきっかけとなり，今後もそういう活動には参加しようという意志をもてた．韓国の人が日本に来るのは大変な苦労だとドラマで見ていたが，本当に日本の１／10の物価だと聞きとても驚いた．今後も手紙とメールで交流を続けて，今度は私が韓国に行けたらと思った．最後にもらった手紙に，あなたの親切を私は絶対忘れない，お互いがんばろう！と書かれていたのをみて，帰った後に涙が出た．ホームステイを受け入れて本当によかったと自分でも少し自信がもてた．とても楽しかったです．

晋州保健大学学生との交流をとおして学んだこと

看護３年　緒方るい子

今回三泊四日の日程で韓国の看護学生と交流できる機会を頂き，短い期間でしたがお互いの国の文化について，大学での生活についてなど将来同じ看護職に就く学生どうしでいろいろと話をすることができました．

母国語が韓国語と日本語という大きな言葉の壁もありましたが，何とか共通語である英語を用いて会話をすることができました．今改めて英語で会話をするという能力が求められていることを痛感しました．会話のほとんどは英語でしたが，韓国の学生さんはその中でも時折，来日前に勉強したり高校時代に習った日本語を使って会話をしてくれました．私たち日本の学生はあいさつ程度の韓国語しか知らないのに対して，韓国の学生はいろいろな日本語を勉強しており，意識の違いを感じ反省させられた場面もありました．

今回の交流の中で，私はホストとして日本の家庭についても十分知ってもらいたいと思っていました．韓国の学生さんは，例えば日本の住居については，畳の部屋や仏壇などに特に興味をもっていました．相手の韓国の学生さんから質問を受けることで，逆に私が「韓国ではどうなのか」と疑問を生じ，韓国での生活の様子や住居について知ることができたこともあります．日本の暮らしを知ってもらうために，観光だけではなく実際にホームステイをして食住を体験してもらったことはとても意義あることだったと思います．

同じ看護学生として，両国の看護教育についてもお互いに意見を交換することができました．近年，看護職の地位向上のために看護教育が大学化していることは韓国でも同様であることを知りました．また，韓国の学生は日本の学生以上にレポートや予習復習に追われているという事を知り，日本の大学が諸外国と比べて楽であるということも会話の中から感じることがありました．

自国以外の学生と交流することによって，日本の文化を再認識したり自覚させられた事も多く，良い勉強になりました．今回の交流をきっかけにして将来他国の看護職と自由に意見を交換したりできるようになれたらいいと思います．

日本と韓国はわずか数十年前までは歴史的にいろいろな出来事があった間柄ですが，これから新しい時代を迎えるにあたって，わたしたちが日本と韓国を結ぶ架け橋となる一人となればよいのではないかと思います．このようなことからも今回の交流はとても意義のあるものであったと評価でき，今後も相互に交流を続けていければよいと思います．

韓国の看護学生との交流で学んだこと

看護３年　折原未亜子

私が今回韓国からの看護学生をホストとして受け入れた理由として，はじめはただ単に韓国の人と友達になりたいという簡単な気持ちでした．しかし，１日１日と交流を深めていくうちに，文化・生活の違いはもちろんのこと，韓国と日本の言葉についてや考え方の違いについてなど，とても多くのことを学ぶことができました．

最初の交流会では韓国の皆さんの情熱的なところに圧倒されてしまいました．もともと英語が得意でない方でしたので，韓国の皆さんのパワフルさに驚き，初めの方はなかなかうまくコミュニケーションをとることができませんでした．「この先どうなるのだろう」と不安すら感じていましたが，絵やボディランゲージなどを取り入れることで，少しずつコミュニケーションがとれるようになり，最後の方は自分でも驚くほどスムーズに会話ができていた気がします．コミュニケーションは看護ではとても大切なことです．言葉が通じなくても，相手のことを知りたい，自分の思いを伝えたいと強く思うことで，その人との間にある壁をのりこえてコミュニケーションできるのだと，あらためて感じました．（それぞれの国の言葉で話すとお互いに壁ができてしまう．（自分の国の言葉は禁止．英語だけで話そう）という，ある人の言葉に心を打たれました）

韓国語と日本語はまったく違うように聞こえますが，中にはとても似ている言葉がいくつもありました．これは日本が韓国を植民地としていた時代のなごりのようです．そのため韓国の高齢者の方々はこの日本語に似ている言葉を話すことを嫌っているのだと韓国の皆さんは言っていました．それと同じようなことですが，在宅の実習で高齢者の自宅を訪問した時，たまたまワールドカップがTVに映っていました．すでに日本は負けていたため私は同じアジア人である韓国を応援していました．しかし高齢者の方は韓国が負けることをいいように言っていたのです．私はそのことを聞いて，とてもショックを受けました．これらを考えると，韓国と日本との間で起こったつらい歴史が今もなお高齢者の心に強く残っているの

だと感じました．もう二度とそのようなことが無いでほしいと願っています．

その他にもたくさんのことを学ぶことができましたが，全てを書くととても長くなるので終わりにします．このような機会を作って下さった先生方，家にホームステイをしてくれたイー・シネさん，看護学生の皆さん，本当にありがとうございました．

国境を越えた友情

看護３年　　木原早紀子

ホスト募集のプリントをもらったときは，興味は持ったけれど，実際自分から申し出てホストになろうとは思いませんでした．先生の話で，「一人だけホストがいなくて困っている」と聞き，しぶしぶホストになりました．留学生が来るまでは，期待よりも不安や後悔の気持ちが大きかったことを覚えています．しかし，ジンや他の留学生にすばらしい思い出をもらって感謝しています．日本人だけでは絶対に作れない思い出です．

私の友達はあいにく実習で暇がなく遊びに行くことができず，１日目のウエルカムパーティーの後，２日目の夕方などの時間に自分は何もしてあげられない，他のホストの人はきっと色々計画して楽しむんだろうな，申し訳ないなと思っていました．しかし，１日目のウエルカムパーティーの時に留学生の方から，「この後，何人かの留学生とそのホストとで遊ぼう」という誘いが出て，ボーリングに行くことになりました．そのことがきっかけで次の日の夕食や最終日の観光の後はそのメンバーで遊ぶことになり，私の不安は一瞬で解決しました．１日目はボーリングから帰り少し話して，床に就きました．次の日は，昨日のメンバーで，持ち寄り会をしました．料理の量も十分あったし，みんなで色々な話をしたり，浴衣を着付けたりと楽しい時間が過ぎていきました．２時頃に終わり，その後隣人が遊びに来たので５時まで話していました．３日目の観光は寝不足でしたが，長崎に住んでいるからこそ行く機会がないところで長崎の歴史や偉人について知ることができてよかったと思います．解散後は１，２日目のメンバーで居酒屋に行ったり，カラオケに行きました．笑いの絶えない時間でした．私たちがもてなさなければならないと思っていたけれど，そう感じていたのは私だけで，ジンは一緒に楽しもうという気持ちだったことに気づきました．

以前の私の韓国のイメージは発展途上国で生真面目といったいいイメージではありませんでした．しかし，ジンや他の留学生と色々と話していくうちに，親しみやすく面白く元気で活発な印象を持ちました．また，彼女たちは愛国心が強いと思いました．韓国人に対する固定観念は跡形もなく崩されていきました．韓国の政治や事件，芸能界，考え方，風習など教科書や雑誌では感じることのできない生の韓国を知ることができました．また，彼女たちは日本のことを沢山知っており，日本のことでも話題が尽きませんでした．同時に遠いアメリカのことはニュースになるし，よく知っているのに，近い韓国に対しては興味もなく，もちろん知識もありませんでした．北海道に行くより費用も時間もかからない韓国は近くて遠い国であると感じました．この機会を大切にこれからもメールをやり取りしながら交流していきたいと思いました．本当にありがとうございました．

韓国の留学生をホームステイに迎えて

助産専攻　　石橋　陽子

実際にホームステイをする前は，「受け入れたが，本当に大丈夫なんだろうか？」と，とても不安だったが，同時に初めてのホームステイを受け入れることにワクワクもしていた．日本語は通じないだろうから，私がハングル語で話さなければとか，一緒に○○をしよう！とか，結構楽しんでいたのかもしれない．しかし，当日になり講義室に留学生が入ってくると，緊張はピークになった．しかも，留学生は全員赤の韓国のサッカーのＴシャツ．一瞬圧倒されてしまい，不安は益々高まった．生協での食事会の前に私の家にホームステイする学生（パク・ピリョンさん，以後ピリョン）を見つけ，どんなんなんだろうといろいろ考えてはいたが，想像よりも大人でとてもしっかりしているようだった．

食事会で初めて挨拶を交わし，やはり最初はお互い緊張と不安があり，実際言葉も英語でしか通じないことから，何をどう話せばいいか分からなかったが，ピリョンの方からいろいろと話をしてくれてとても緊張がほぐれた．初日は移動で疲れているから，そのまま家に帰りゆっくりするのかと思ったが，11人でボーリングに行くことになり，すごい元気さを感じた．初めて二人でゆっくり話をしたのはボーリングから帰って寝る前だった．どうして看護師になろうと思ったのかとか，テレビを見ながら日本の俳優は知っているかなど，どのくらい韓国の人が日本について知っているのか分かった．やはり，これまでほとんど日本のメディアとは関係していなかった．

２日目，３日目の夜は12人くらいで集まり，ホストがご飯を作り，持ち寄って一緒に話をしながら食べた．日本と韓国は同じ所もあったが，やはり違う所の方が多かった．生活習慣や考え方，恋愛や家族との関わり方など，感心することが多かった．留学生はとても積極的に話してくれて韓国の人達が日本や日本人に対してどのように思っているのか初めて知った．第２次世界大戦の頃の日本人の韓国人に対する虐待について学習しており，今回日本に来た留学生達も日本に来る前は良いイメージを持っていなかったようだ．しかし，こうやって話をしているうちに，日本人を好きになってくれたみたいで受け入れたホストもとても嬉しかったようだ．

３日間と，とても短い期間で，とても仲良くなることができたことがとても良かった．今回は日韓交流サッカーの後ということもあり，だいぶ日本と韓国の交流が始まっ

た時期だったので，このようにスムーズにいくことができたのだろう．今回のことからも，自分の国と相手の国のことは，まず何があったのかなど知っておく必要があると思った．

３日間そんな大したことはできなかったが，受け入れて本当に良かったと思う．これから先，またこのようなことがある時はこの経験を生かしたいと思う．

韓国大学生ホームステイ受け入れを行っての感想

助産専攻科　　蔵岡　育実

私は今回のホームステイ受け入れにあたっては何も考えず，「おもしろそうだから」という簡単な理由で受け入れをしてしまったのですが，よく考えてみると私は今までに外国に行ったこともありませんでしたし，外国の方と話をしたこともありませんでした．

よって１日目に行われた歓迎パーティーの場に行った時は，同じ日本人同士でさえも初対面の人とはなかなかうちとけることのできない私にとって，自分には無理なことをしてしまったのではないかという思いと，本当に私なんかにできるのかという大きな不安とが重くのしかかっていました．また，高校生以来久しぶりに話す英語は本当に忘れてしまっていることを思い知らされ，私はこの３日間彼女たちとコミュニケーションできるのかという大きな不安を抱いてしまったというのが正直な気持ちでした．

しかし，私の受け入れ学生であったイ・ウンジンがその不安を消してくれたと思っています．英語の発音がなかなか聞き取れなくて何度も聞き返してしまう私に対してウンジンは丁寧に，ゆっくりと韓国の文化や習慣のこと，音楽やファッション，韓国の人の考え，またウンジン自身の両親に対する，看護に対する考えなどを話してくれました．そのことによって私はウンジンに対する優しさを感じることができたのはもちろん，自分の考えをしっかり持っていることに対する尊敬の思いを抱きました．

そしてこの３日間はみんなで一緒に食事をしたり，夜遅くまで話をしたりすることで，友達と話すことの楽しさ，自分は話すことができるのだという喜びを心から感じることができた３日間でした．

また市内観光では，私は長崎に住んで４年目になりますが，行ったことがない所もたくさんあって，いつかは平和を考えていく上で行かなければならない場所だと思っていたので，この機会にしかも韓国の人と戦争のこと，平和のことを話しながら観光することができたのはとても幸せなことだったと思っています．

そして，やはりこのホームステイを受け入れた以上，日本はよかったと思って帰ってもらいたかったので，私には責任があるのだと思っていました．自分ではがんばったつもりでいましたが，最終日の別れの時は，私は彼女に何ができただろう，何もできなかったのではないか，私の思いはちゃんと伝えられただろうか，という思いでいっぱいでした．

でもウンジンは私に「育実が作った料理はとてもおいしかった」という言葉と，「育実は親切」という私にとって最高の評価である言葉をくらました．そんな誉め言葉をもらえたことで私は自分の自信にもなったし，このホームステイを受け入れたことは自分にとっても貴重な経験になったと思えたし，ウンジンが私の家に来てくれたことを心から感謝すべきだと思いました．

このホームステイの受け入れをして私は本当に楽しかったし，本当によかったです．

最後になりましたが，この機会を与えて下さった先生方，市内観光の際に暑い中，私たちのために必死になって動いて下さった先生方に心から感謝の意を示したいと思います．

本当にありがとうございました．

ホームステイを受け入れての感想

助産専攻　　園田　佳代

韓国人交換留学生をホームステイとして受け入れ，３泊４日と短い期間ではあったものの，お互い不慣れな英語でコミュニケーションをとっているのは，初めは客観的に見て奇妙な感じがしたが，慣れるとホスト同士でも英語で話し合うようになり，不自然ではなくなっていった．そうやって慣れた頃には別れの時が来て，３日間ではあっても友情は芽生える事を実感することが出来た．

３日間はすごく楽しく，ハードなものではあったが，かけがえのない時間だったと思える．今回，ホストになって，留学生達と友達になれた事も良い事であったが，ホスト同士も友達になれた事も，私にとっては大きな喜びともなった．

私はこの１年しか在学しないけれども出来ることなら日本からの交換留学生として行きたいと思う．また，看護の学生にホストになる事を是非勧めたいと思う．

ホームステイを受け入れての感想

理学２年　　岩永　桃子

私は今まで何度かホームステイをしたことはあったが，受け入れる側になったのは今回が初めてで，ジョンウンが来るまでは３泊４日は長く感じていたが，終わってみると本当にあっという間でした．

初日はどちらも緊張していて，あまり言葉も通じなくてどうしようかと思ったけれど，２日目以降は徐々に慣れてきて，どうにかコミュニケーションもとれるようになったので良かったです．以前何かの授業で「外国に行ったら運動性失語症の人の気持ちがわかる」と先生が言っていたことを思い出しました．本当に自分の言いたいことを口に出せないというのはとても歯がゆくて，くやしいけれど案外言葉で通じなくてもボデイランゲージや絵など様々な方法を使ってコミュニケーションを取ることは可能だということがわかりました．

また韓国と日本の似ているようで微妙に違う習慣などもとても興味深かったです．食事の際，日本人は左手で皿

を持って食べるけど韓国では持たなかったり，写真を撮るときのかけ声も「3，2，1」で初めはとても違和感を感じたが最後のころには自然と自分たちも「3，2，1」と言って写真をとっていました．しかし，夕食などで「これは日本の食べ物だ」と思って食べさせたら，ほとんど「韓国に同じようなものがある」と言われ，少し残念でした．けれどもたこ焼きは初めてだったようで，日本で食べた中で一番おいしかったと言ってもらえてうれしかったです．

今回，一番残念だったことは土曜日の市内観光がバタバタだったことでした．行くところが多すぎで，1カ所1カ所をよく見ることができなくて，私達はまたいつでも来れるからいいが，韓国からはそう何度も来れるわけではないので，もっとよく見せてあげたかったです．特に原爆資料館では時間がなくて最後の方はほとんど見ることができず，とても見たがっていたので残念でした．もう少し行くところを減らして1カ所1カ所をじっくり見たかったです．そして自由行動の時間も少なくて家に来ていたジョンウンは古美術が見たいと言っていたけど，もう時間が遅くて，ほとんど閉まっていて見れなかったのが本当に心残りです．

短い期間でしたが，他の国の人と一緒に生活をするというのは自分の世界を広げるためにもとてもいい経験になりました．今回受け入れ先になって本当によかったと思います．

留学生を受け入れての感想

作業2年　　井上　摩紀

私はずっと前から留学生を受け入れる「ホスト」になってみたいと思っていました．しかし，中学校と高校ではそんな機会もなく，自分自身が留学生になることもなく今に至りました．そんな中でホストを募集するプリントが配られて「やってみたい」と思ったものの，現在では一人暮らしで満足な食生活を提供できるか不安があったし，家の中で1対1で会話が続いたり，場が持つかどうかも自信がありませんでした．それで，友達に何度も相談して，助けてもらうという約束をとりつけた上でホストに応募しました．

ウエルカムパーティーではホストの中に知り合いが1人しかいなくて，2人孤独状態でホストに応募した事に少し後悔しました．それから留学生が入場してきて食事になったものの，自分の所に泊まる学生がなかなか見つからず，別の留学生に教えてもらってやっと見つける事が出来ました．そして自己紹介はしたものの，何となく会話が出来なくて「困ったなあーー」と内心思いながら食事をしていたけれど，徐々に話すことが出来ました．それからプレゼントをもらったり，ストラップを交換するなど，今まで経験したことがないようなことをやって，「やっぱり受け入れて良かった」と思いました．

家に連れて来て最初に言われたことは「家に泊めてくれてありがとう」という事で，それを聞いてとても嬉しかったです．英語での会話はなかなかうまくいかないことも多くて（私の英語力が低いので），お互いに困ったこともあったけど，ジェスチャーや絵で何とか乗り切れました．言葉が多少通じなくても案外どうにかなるものだという事を実感しました．

4日間彼女についてよく感じた事は積極的そして勉強熱心だという事でした．何でも日本語を聞いて，音をハングル語で書き取り，その言葉の意味を尋ねてはまたノートに書き込んでいました．一度「勉強熱心だね」と言うと「みんなそうだよ」と言っていたので，韓国の学生はすごいなあと思い，少しは見習おうと思いました．他には様々な場面を日本語を使って体験しようとする姿勢がよくみられました．買い物や写真を撮ってもらうように頼むことなど，本当に困った時以外は自分で積極的にやっていました．私だったらホストに頼りきってしまうかもしれない状況を，彼女は自分でやっているのを見て，もっと自分も色んな事に積極的にやっていこうと思いました．

家には毎日のように同じ学科の友達が来て，みんなでしゃべったり，食事をしたりしていました．みんなが積極的に来てくれたので，とても助かりました．私が思い付かないような日本特有の遊びやイベントを紹介したり体験したり，調理を手伝ってくれたり，ゆかたを持って来てくれて着せてくれたりしてくれました．おかげで一人暮らしならではの日本の生活を味わせることが出来たし，楽しんでもらえたと思います．みんなも楽しんでいました．

土・日関係なく朝早く起きたり，夜遅くまで起きていたので，体力的にすごく疲れたけれど，とても充実した4日間だったと思います．ホストになって本当に良かったと思っています．とても良い経験になりました．